令　和　7　年　度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　　福島福祉施設協会

Ⅰ 事 業 報 告

1. 福祉施設経営

総合的な福祉施設の経営団体として、合理的かつ能率的な施設経営を行うとともに、地域住民や利用者の要望に対処するように努めた。地域社会と密接な連携を保ち、施設機能の活用を図りながら地域福祉の向上に努めた。

2. 法人運営

(1) 社会福祉法人としての重要な役割を果たすべく、経営意識をもって事業運営に関する透明性が向上できるよう諸規程を整備した。

(2) 利用者の立場にたち、多様化するニーズに的確に対応出来るように満足度調査を実施し、自主的改善に努めた。

(3) よりよい福祉サービスを提供するため、職員が心身ともに元気に働ける職場を目指した健康づくりや職員の処遇改善全般の向上に努めた。

3. 重要な取り組み

(1) 法人経営の安定的な継続や地域社会への説明責任を果たし信頼を高めるため、中長期計画に基づき施設整備及び事業を行った。

(2) 会計監査導入に向けた取り組みとして、固定資産物品の管理台帳等の整備に努めた。

(3) 多様な人材の雇用として、関係機関と連携し、障がい者の雇用を継続的に行った。

(4) 災害時の避難先確保のため避難場所提供の覚書を基に安全対策を講じた。

(5) 職員採用について、職員の出身学校へ訪問し、広報活動を行った。

(6) 職員の人材確保と定着に努めるとともに、各種研修を通じ社会福祉理念、技術の習得向上など法人全体の福祉サービスの向上に努めた。

・中堅職員研修　　コーチング研修『伝える力』の向上（5回）
・中堅職員研修　　ハラスメントの知識・防止対策（2回）
・広報研修　　Canvaの使い方の習得と施設広報への活用（1回）

(7) 各種ハラスメントについて、予防対策や早期発見への取組みと対応を行った。

(8) 法人本部と職員との個別面談や職員アンケートを実施し、施設や職員の現状を把握し、より良い職場環境の整備に努めた。

(9) 事業継続計画（ＢＣＰ）の整備と見直しを行い、継続的なサービスの提供ができる体制を整えた。

(10) 健康診断後の二次健診を徹底、ストレスチェックの実施、健康便りの発信により職員の心身の健康づくりに努めた。

(11) 職員が気軽に心や身体の悩みを専任保健師へ相談することができる「健康相談窓口」を設置し、健康のサポートを行った。

(12) 計画的な年次有給休暇の取得を促進し、周知徹底や実績調査の実施により確実な年次有給休暇取得に努めた。

(13) 当協会や施設を広く知ってもらうため、広報委員会を中心に日々の施設の様子をSNSで積極的に発信した。

4. 評議員会・理事会・監事会の開催

(1) 評議員会

定時　令和 7 年 6 月 24 日（火）

議案第 1 号　令和 6 年度各会計決算承認の件

議案第 2 号　理事選任の件

議案第 3 号　監事選任の件

報告第 1 号　令和 6 年度事業報告

臨時　令和 8 年 3 月 25 日（水）

議案第 4 号　役員等報酬規程の一部変更の件

議案第 5 号　理事選任の件

(2) 理事会

第 1 回　令和 7 年 6 月 6 日（金）

議案第 1 号　令和 6 年度事業報告承認の件

議案第 2 号　令和 6 年度各会計決算承認の件

議案第 3 号　就業規則の一部変更の件

議案第 4 号　給与規程の一部変更の件

議案第 5 号　服務規程の一部変更の件

議案第 6 号　無期雇用転換職員の雇用等に関する規程の一部変更の件

議案第 7 号　臨時雇用職員の雇用等に関する規程の一部変更の件

議案第 8 号　福島恵風園職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第 9 号　介護職員等の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第 10 号　介護職員等の給与改善に係る手当の支給に関する規程制定の件

議案第 11 号　めぐみの風居宅介護支援センター職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第 12 号　保育所職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第 13 号　福島わかば保育園屋上防水改修工事請負契約締結方法決定の件

議案第 14 号　令和 7 年度各会計資金収支補正予算（第 1 回）

議案第 15 号　評議員選任・解任委員選任の件

議案第 16 号　評議員選任・解任委員会招集事項決定の件

議案第 17 号　福祉サービス苦情解決第三者委員選考の件

議案第 18 号　定時評議員会招集事項決定の件

報告第 1 号　職務の執行状況について

第 2 回　令和 7 年 6 月 24 日（火）

議案第 19 号　会長選定の件

議案第 20 号　副会長選任の件

議案第 21 号　常務理事委嘱の件

第 3 回　令和 7 年 8 月 6 日（水）

議案第 22 号　福島わかば保育園屋上防水改修工事請負契約締結の件

第 4 回　令和 7 年 12 月 3 日（水）

議案第 23 号　福島恵風園職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第 24 号　無期雇用転換職員の雇用等に関する規程の一部変更の件

第 5 回　令和 7 年 12 月 23 日（火）

議案第 25 号　給与規程の一部変更の件

議案第 26 号　令和 7 年度各会計資金収支補正予算（第 2 回）

第 6 回　令和 8 年 2 月 4 日（水）

議案第 27 号　令和 7 年度各会計資金収支補正予算（第 3 回）

第 7 回　令和 8 年 3 月 16 日（月）

議案第 28 号　令和 7 年度各会計資金収支補正予算（第 4 回）

議案第 29 号　職員給与規程の一部変更の件

議案第 30 号　無期雇用転換職員の雇用等に関する規程の一部変更の件

議案第 31 号　臨時雇用職員の雇用等に関する規程の一部変更の件

議案第 32 号　事務局職員に対する処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第 33 号　児童センター及び福島市わたりふれあいセンター職員に対する処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第 34 号　児童センター管理運営規程の全部改正の件

議案第 35 号　令和 8 年度事業計画策定の件

議案第 36 号　令和 8 年度各会計資金収支予算

議案第 37 号　施設長等選任の件

議案第 38 号　令和 7 年度第 1 回臨時評議員会招集事項決定の件

報告第　2 号　職務の執行状況について

第 8 回　令和 8 年 3 月 25 日（水）

議案第 39 号　経理規程の一部変更の件

議案第 40 号　役員等賠償責任保険契約締結の件

議案第 41 号　福島恵風園給食業務委託契約締結の件

（3）監事会

令和 6 年度事業における業務執行、財務状況監査

令和 7 年 5 月 27 日（火）・28 日（水）

5.　役員等研修会への参加

（1）令和 7 年度　福島県社会福祉法人経営者協議会第 1 回総会

主　催　　福島県社会福祉協議会

期　日　　令和 7 年 7 月 29 日（火）

場　所　　ビッグパレットふくしま

出席者　　八島　洋一

（2）令和 7 年度　福島県社会福祉大会

主　催　　福島県社会福祉協議会

期　日　　令和 7 年 10 月 23 日（木）

場　所　　会津風雅堂
出席者　　八島　洋一

(3) 令和７年度　労務協会下期研修会
主　催　　福島中小企業労務協会
期　日　　令和７年10月30日（木）
場　所　　キョウワグループ　テルサホール
出席者　　八島　洋一

(4) 令和７年度　社会福祉法人理事・評議員研修
主　催　　福島県社会福祉法人経営者協議会
期　日　　令和８年２月20日（金）
場　所　　オンライン研修
出席者　　八島　洋一

6. 職員研修の実施
(1)　令和７年度　コーチング研修（正規職員　中堅層）
① 令和７年７月23日（水）
② 令和７年８月27日（水）
③ 令和７年９月25日（木）
④ 令和７年10月23日（木）
⑤ 令和７年11月26日（水）
講　師　　㈱ネクサス　代表取締役　杉村　基樹氏
場　所　　福島福祉施設協会　会議室
内　容　　「伝える力」の向上
参加者　　コーチング研修未受講の30歳以上の正規職員　７名

(2)　令和７年度　ハラスメント研修
期　日　　令和７年11月６日（木）・11月27日（木）
講　師　　さくら人材コンサルティング㈱　代表取締役　伊藤　明美氏
場　所　　オンライン研修
内　容　　ハラスメントの知識・防止対策
参加者　　30～49歳の主任を除く正規職員　26名

(3)　令和７年度　広報研修
期　日　　令和７年11月４日（火）
講　師　　㈱ハタフル　佐藤　拓巳氏・七海　歩氏
場　所　　オンライン研修
内　容　　Canvaの使い方の習得と施設広報への活用
参加者　　全施設の広報担当者他　28名

7. 苦情受付

(1) 令和7年度苦情受付件数

施設区分	件数	内容
高齢者施設	7 件	・介助浴の時間帯に関すること ・施設内の衛生管理に関すること ・木の伐採に関すること ・靴の履き違いに関すること ・職員の対応に関すること ・駐車場利用に関すること
保育所	7 件	・送迎時の車の騒音に関すること ・職員の対応に関すること ・園外保育でのこどもの声に関すること ・木の伐採に関すること
児童センター	4 件	・隣接する駐車場でのトラブル ・職員の対応に関すること ・児童の下校時の行動に関すること
合計	18 件	

(2) 主な苦情内容

高齢者施設	苦情申出人	利用者
	苦情内容	トイレや脱衣所の匂いや床の汚れが気になる。
	処理内容	全職員に周知し、定期的な見回りを含め衛生管理の徹底を図った。
保育所	苦情申出人	近隣住民
	苦情内容	保育所の樹木が電線にかかり危険なため対応して欲しい。
	処理内容	関係機関と連絡をとり早急に伐採することを申出人にも伝え、その後伐採が完了した。
児童センター	苦情申出人	保護者
	苦情内容	職員の対応や言動が高圧的で不愉快である。
	処理内容	謝罪したのち、利用上の決まりを保護者と共に再確認し、職員間で対応の仕方やその他情報を共有した。

8. 職員の状況（令和8年3月31日現在）

年齢構成

	70代	60代	50代	40代	30代	20代	10代	合計
令和7年度	7人	55人	92人	61人	40人	28人	1人	284人
令和6年度	5人	43人	82人	66人	43人	27人	0人	266人
前年比	2人	12人	10人	△5人	△3人	1人	1人	18人

職員区分

	正規職員			無期転換職員			臨時雇用職員			合計		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
令和7年度	3人	70人	73人	1人	36人	37人	15人	159人	174人	19人	265人	284人
令和6年度	4人	67人	71人	1人	36人	37人	12人	146人	158人	17人	249人	266人
前年比	△1人	3人	2人	0人	0人	0人	3人	13人	16人	2人	16人	18人

9. 地域における公益的な取組

① 地域の要支援者に対する相談支援

内　　容：地域住民や利用者（保護者）等に対する相談支援

取組施設：全施設

② 地域の要支援者に対する資金や物資の貸付・提供

内　　容：福祉器具や AED、レクリエーション器具等の貸出

取組施設：福島恵風園、福島恵風園デイサービスセンター、全保育所、全児童センター

③ 既存事業の利用料の減免

内　　容：低所得者に対し利用者負担額を軽減

取組施設：福島恵風園デイサービスセンター

④ 地域の福祉ニーズを把握するためのサロン活動

内　　容：デイサービスの一日体験や子ども食堂事業

取組施設：福島恵風園デイサービスセンター、福島市野田児童センター

⑤ 地域住民に対する福祉教育

内　　容：福祉人材の育成を目的とした実習生やボランティア等の受入れ

取組施設：全介護保険事業所、全保育所、全児童センター

⑥ 地域の関係者とのネットワークづくり

内　　容：地域団体や町内会との連携及び参画

取組施設：全児童センター

⑦ 福祉に関する情報発信

内　　容：子育てや保育、介護に関する情報発信（SNS 利用を含む）

取組施設：全施設

⑧ 地域の清掃活動

内　　容：周辺の道路や近隣の公園等の清掃及び除草、除雪

取組施設：全児童センター

Ⅱ　実 績 報 告

養護老人ホーム
福島恵風園

1. 運営管理

(1) 施設の感染症対策をした中で、快適な生活を送れるよう工夫した。

(2) 介護を要する入所者は介護保険サービスを利用し、心身機能の維持を図った。

(3) 被虐待高齢者、一人暮らしによる生活困窮の高齢者、身元引受人のいない高齢者などを積極的に受け入れた。

(4) 100 名の定員を満たすため、生活支援を必要とする高齢者を入所につなげるよう福島市、他市町村、地域包括支援センターに働きかけを行った。

(5) 福島市に対し、園の老朽化に伴う修繕の必要性や入居者の状況等について情報共有を行った。

(6) 「福島市あらかわクリーンセンター」からの給湯を活用した。

(7) 給食業務は、食事形態の急な変更や代替食への柔軟な対応に加え、災害時には応

援体制も整っていることから、同一業者との委託を継続した。
(8) 避難訓練（火災・水害・地震等）を実施した。
(9) 福島恵風園拠点における非常災害対策に係る事業継続計画（ＢＣＰ）に基づき、避難時を想定した合同訓練を実施した。
(10) 法人内の介護保険事業所と定期的に連携会議を開催し、各事業所間で情報共有を行った。

2. 職員体制
(1) 職員間の共通課題意識向上のため、各種研修会（オンライン・対面）に参加した。
(2) 夜間専門員の確保が困難な状況が続き、職員の夜勤回数が増加し、日中の職員が少ない状況が慢性化した。

3. 施設整備
(1) 深井戸のポンプ交換
(2) 居室入口の壁補修
(3) 正面玄関の自動ドアセンサーの交換
(4) ろ過機械室井水用薬注装置用ポンプの交換
(5) 非常用発電機触媒栓の交換
(6) 洋式トイレの便器改修　２か所

4. 健康管理
(1) 新型コロナウイルス感染症に、8月に1名、1月に6名、2月に3名 合計10名の入居者が感染した。
(2) 定期健康診断、結核検診、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症の予防接種を実施した。
(3) インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス感染症予防のための啓発、各所の消毒、加湿、検温、マスクの着用など予防に努めた。
・インフルエンザが発症した場合の予防薬投与について、承諾を得ている
・インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の地域の感染状況を確認しながら、外出制限は行ったが、園内での面会・オンライン面会については通常どおり継続して実施した。
(4) 感染症対策として、来訪者の検温、消毒、マスクの着用の徹底を行うとともに、施設内の消毒環境の充実に努めた。
(5) 熱中症予防のための啓発・水分補給を行った。
(6) 食中毒防止のための啓発に努めた。

5. ニーズへの対応
(1) 中央廊下に扇風機を設置したことで、夏にはエアコンの冷気を効率よく循環させることができた。
(2) 感染症対策により外出ができない冬季には、映画鑑賞会の回数を増やすなどの工夫を行った。
(3) 外出時間の延長を行い、外食も可能とした。

(4) 園で収穫した野菜や果物を使ったおやつを提供した。
(5) 月2回の食料品の訪問販売を実施した。
(6) ネットショップを活用して日用品を購入した。
(7) 年2回の衣料品訪問販売に加え、バザーの回数も増やし、内容の充実を図った。
(8) 洗濯が困難となった方へ、希望によりクリーニング業者を利用できるよう対応した。
(9) 室内への冷蔵庫やテレビの設置を希望する入居者には、家電業者への手配および立ち会い対応を行った。

6. 地域交流活動

(1) 県北地域包括支援センター職員に施設内を見学してもらい、園の現状を説明することで情報を共有し、養護老人ホームの役割等についての理解を一層深めてもらう機会となった。
(2) 吉井田地区文化祭に参加し、在園者の作品を出展するとともに、園のパンフレットを配布した。
(3) 福島大学の学生による教育職員免許法に基づく介護等体験の受け入れを行った。
(4) 法人内の介護保険事業所における地域貢献事業活動に参加し、職員と交流を図った。

7. 利用状況

入所者数

	令和7年度			令和6年度			前年比
	男	女	計	男	女	計	
年間延べ入所者数	10,446人	26,466人	36,912人	9,618人	26,438人	36,056人	856人

退所者数

退所理由	令和7年度	令和6年度	前年比
死亡	6人	9人	△ 3人
長期入院	0人	0人	0人
他施設への転所	9人	0人	9人
自宅生活への復帰	0人	0人	0人
その他	0人	0人	0人
計	15人	9人	6人

地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業
福島恵風園デイサービスセンター

1. 運営管理
   (1) 利用者の生活の質の向上のため、サービス担当者会議等に出席し、家族や各居宅介護支援事業所等と連携を図った。
   (2) 外部利用者の送迎を、安全かつ安心な体制のもとで実施した。
   (3) 入浴介助については、介護職員を十分に確保し、きめ細かな介助を実施した。また、職員の熱中症予防の為、大型扇風機や冷水を活用し、入浴介助用の服とサンダルを購入した。
   (4) 各種行事については、季節に応じたレクリエーション等を実施した。
   (5) 食事については、栄養士と連携し個々人のニーズに沿って提供した。また、利用者と一緒におやつを作るレクリエーションも実施した。
   (6) レクリエーション・機能訓練等、楽しみながら心身活性化を図った。
   (7) 年 2 回、運営推進会議を開催し、地域との交流や連携を図った。
   (8) 事業所内外の研修に参加し、専門職としての質の向上を図った。
   (9) 事業継続計画（ＢＣＰ）に基づき、研修および訓練を実施した。
   (10)生産性向上委員会を開催し、業務改善を図った。

2. 衛生管理
   (1) 福島恵風園拠点で感染症対策委員会を開催し、様々な状況に応じた感染対策について方針を確認した。
   (2) 空気清浄器の整備を行い、施設内の消毒を 1 日 2 回実施し感染予防に努めた。
   (3) 浴槽のレジオネラ菌の検査を年 1 回実施した。
   (4) インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の対策として、マスクの配布・手指消毒を実施し発生予防に努めた。
   (5) 職員が感染の媒体にならないよう消毒を徹底した。
   (6) パート職員への健康診断（労働安全衛生規則健診Ⅱ）を実施し、健康管理に努めた。

3. 施設整備
   (1) 災害時用の備蓄品を補充し、再度整えた。
   (2) フロア内の蛍光灯をＬＥＤ化した。

4. 地域交流活動
   (1) 第 30 回吉井田地区文化祭に利用者の作品を出展するとともに、事業所のパンフレットを配布した。
   (2) 介護保険事業所共同で介護予防のための運動レクリエーション活動を行い、福島隣保館保育所の管理栄養士の協力を得て、栄養講座や調理実習を実施した。(5 回実施)
   (3) 介護保険事業所共同で、福島恵風園内向けに歌や音楽体操等の活動を実施した。（4回実施）

5. 利用状況

		令和7年度	令和6年度	前年比
年間延べ利用者数		3,468 人	3,196 人	272 人
1日平均利用者数		13.5 人	12.7 人	0.8 人
稼働日数		257 日	252 日	5 日
登録者数(3月31日現在)		43 人	44 人	△ 1 人
要介護度内訳	事業対象者	1 人	1 人	0 人
	要支援1・2	1 人	2 人	△ 1 人
	要介護1	8 人	8 人	0 人
	要介護2	5 人	8 人	△ 3 人
	要介護3	14 人	9 人	5 人
	要介護4	8 人	11 人	△ 3 人
	要介護5	6 人	5 人	1 人

指定居宅介護支援事業

めぐみの風居宅介護支援センター

1. 運営管理

(1) 利用者のニーズへの的確な対応と生活の質の向上を目指し、関係機関との連携を図りながら、総合的かつ効率的な視点に基づくサービスを提供した。

(2) 福島恵風園、福島恵風園デイサービスセンター、ホームヘルパーステーションめぐみと情報交換や意見集約を行いながら、園内利用者のニーズに即応した円滑な介護サービスの提供が行えるよう連携を図った。

2. 事業内容

(1) 要介護認定を受けた高齢者等を対象に、利用者の心身の状態や生活環境、意向に沿ったケアプランを作成し、サービスの調整を行った。

(2) 指定介護予防支援業務の委託を地域包括支援センターより受け、介護予防、総合事業のケアマネジメントを行った。

(3) 要介護認定調査の委託を受け、要介護認定調査を行った。

(4) 各種研修会に参加し自己研鑽に努め、質の高いケアプランの作成や相談援助に生かした。

(5) 地域包括ケアシステムの構築に向け、地域ケア研修会への参加や地域の諸団体との連携を図った。また、地域における主任介護支援専門員の役割として、研修の講師補助の協力を行った。

(6) 利用者や家族の緊急時に対応するために、常時（24 時間）担当者と連絡可能な体制を整え、営業時間以外にも対応を行った。

(7) 事業継続計画（ＢＣＰ）での研修や訓練では、同一建物内事業所と共同で取り組んだ。

(8) 地域貢献事業として、介護保険事業所が共同で、地域の高齢者や恵風園入居者の介護予防を目的とした運動教室などを定期的に開催した。

3. 利用状況

	令和7年度	令和6年度	前年比
居宅サービス計画作成件数（月平均）	113.5 件	101.6 件	11.9 件
予防委託件数（月平均）	11.1 件	10.1 件	1.0 件
給付管理年間件数	1,363 件	1,220 件	143 件
認定調査年間実施件数	62 件	55 件	7 件
在宅訪問年間件数	1,732 件	1,696 件	36 件

指定訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業
ホームヘルパーステーションめぐみ

1. 運営管理
   (1) 地域の利用者や福島恵風園の利用者を中心に、ホームヘルプサービスを提供した。個人の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、入浴介助や排泄介助、食事介助などの身体介護のほか、掃除や買い物、調理などの生活援助を提供した。
   (2) めぐみの風居宅介護支援センター、地域の居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター並びに福島恵風園と密接に連携し、利用者のニーズに十分配慮しながら、経営基盤の安定に努めた。
   (3) サービス担当者会議に出席し、保健医療サービスおよび福祉サービス提供事業者との密な連携を図った。
   (4) 利用者のニーズに対応するため、必要に応じて勤務時間帯を変更し、より充実したサービス提供に努めた。

2. 事業内容
   (1) 要介護者および要支援者に対し、訪問介護を提供した。
   (2) 福島恵風園の利用者が新型コロナウイルス感染症の陽性者となった際には、居宅介護支援事業所の調整連携により、利用者の食事介助や排泄介助などの身体介護について、可能な範囲でサービス提供を行い、臨機応変に対応した。
   (3) 定期的な事業所内研修を充実させるとともに、主に福島県社会福祉協議会主催の外部研修に参加し、契約しているインターネット配信サービス等も活用することで、職員の資質向上と専門性の向上に努めた。
   (4) ＩＣＴを活用し、計画書等の作成・記録業務・情報共有業務・請求業務を一気通貫で行うことで、更なる業務の効率化を図った。
   (5) 園外の在宅利用者の新規依頼を積極的に受け、在宅利用者のサービス提供を行い、地域からの信頼を得られるよう努めた。
   (6) 昨年度に引き続き、介護保険事業所共同で、介護予防の為の運動やレクリエーション活動、福島隣保館保育所の管理栄養士の協力を得て、栄養講座や調理を実施した。
   (7) 介護保険事業所共同で、福島恵風園内向けに歌や音楽体操等の活動を実施した。

（8）福島県認知症介護実践リーダー研修を受講し、より良い認知症ケアの指導と人材育成を行うための体制を整えた。

3. 安全衛生管理

（1）福島恵風園拠点における自然災害と感染症の業務継続計画（ＢＣＰ）に基づき、研修および訓練を実施した。

（2）福島恵風園拠点で感染症対策委員会を開催し、様々な状況に応じた感染対策について方針を確認した。

（3）備蓄したマスクおよびフェイスシールド等のウイルス対策用品を使用して換気や消毒を徹底し、新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザ等の感染対策に努めた。

（4）出勤前の検温および健康チェックを実施し、職員の健康管理に努めることで、感染対策を行った。

（5）万が一感染者が発生した場合に媒体とならないよう消毒を徹底し、感染拡大予防に努めた。

（6）腰痛予防の研修を重ね、スライドボード・スライドシート等の介護用品を活用した。また、１人での対応が難しい利用者へは支援員の協力を得て、２人体制で移乗介助するなど、安全に業務を遂行するよう努めた。

（7）熱中症対策としてアイスベストを取り入れて使用し、職員の健康管理に努めた。

（8）パート職員への健康診断（労働安全衛生規則検診Ⅱ）を実施し、健康管理に努めた。

4. 利用状況

		令和7年度	令和6年度	前年比
年間延べ利用者数		15,066 人	15,572 人	△ 506 人
1日平均利用者数		41.3 人	42.7 人	△ 1.4 人
年間累計利用回数		24,275 回	25,213 回	△ 938 回
稼働日数		365 日	365 日	0 日
要介護度内訳	登録者数（3月31日現在）	59 人	53 人	6 人
	要支援1・2	5 人	3 人	2 人
	要介護1	10 人	8 人	2 人
	要介護2	8 人	9 人	△ 1 人
	要介護3	20 人	15 人	5 人
	要介護4	10 人	11 人	△ 1 人
	要介護5	6 人	7 人	△ 1 人

老人福祉センター（福島市指定管理施設）

福島市わたりふれあいセンター

1. 運営管理

高齢者が健康で明るく楽しい日々を過ごすために、浴室や休憩室、健康増進器具等を整備し、囲碁・将棋及び図書等の娯楽用具を配置することにより、利用者に潤いと憩いの場を提供した。

また、専門職による健康相談や生活相談などの実施や児童センターを利用するこどもたちとのふれあいを通して、高齢者の心豊かで生きがいのある暮らしに寄与した。

2. 活動状況

（1）基本的な感染症対策の継続など、利用者の安全・安心の確保に努め、事業目的の達成に努めた。

（2）地域福祉の向上に寄与するため、地域の各種機関・団体と連携し、施設を地域コミュニティ活動の場として利用の促進を図った。

（3）高齢者と児童が交流する機会をつくることにより、高齢者の生きがいと社会参加の促進を図った。

（4）利用者が活動しやすい雰囲気づくりに努めた。

（5）利用者の生活相談や健康相談、健康講座、入浴施設及びホールの開放等を実施した。

（6）遊戯室を開放し、卓球・バドミントン等の利用に活用したほか、２階視聴覚室でカラオケクラブを定期的に実施した。

（7）既存事業の充実（変わり湯を毎月開催、カラオケを週２回開催）のほか、新規事業（脳トレ週間、ふれあい時間、ももりん体操、手工芸クラブの実施）へ取り組むなど、利用者の増加に努めた。

3. 利用状況

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
一般利用者数	19,201人	17,652人	16,942人	14,387人
上記のうち入浴者数	18,926人	16,359人	15,672人	12,775人
一日平均利用者数	56.6人	52.1人	50.0人	42.3人
開館日数	339日	339日	339日	340日

生きがい型デイサービス・外出支援事業（福島市委託事業）

福島市渡利デイサービスセンター

1. 運営管理

在宅で生活する介護保険対象外の比較的元気な高齢者や、家に閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者を対象に、外出と社会交流の機会を提供することで、社会的孤立を予防し、自立した「生きがいのある生活」の維持・向上に努めた。

2. 活動状況

(1) 市の委託事業として、利用者の確保および各種行事の実施により、事業を円滑かつ安定的に推進し、その目的の達成に努めた。
(2) こどもたちとの世代間交流を推進し、高齢者の生きがいづくりと社会参加を促進した。
(3) 利用者の健康および生活の維持・向上のため、関係機関と積極的に連携した。
(4) 送迎、昼食、入浴等のサービス提供および創作活動、趣味活動、日常動作訓練等を実施した。
(5) 利用者が活動しやすい雰囲気づくりに努めた。

3. 利用状況

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
延べ利用者数	2,171人	1,622人	1,454人	1,474人
一日平均利用者数	9.0人	7.0人	6.1人	6.1人
稼働日数	240日	233日	239日	241日
登録者数 (3月末現在)	56人	41人	34人	40人

保　育　所
福島隣保館保育所、福島保育所、瀬上保育所
福島わかば保育園、福島ふたば保育園、飯坂保育所

1. 運営管理
(1) 保護者が安心して預けられるよう、質の高い保育に努めるとともに、こどもの生命保持と健やかな生活の基本となる健康安全の確保に努めた。
(2) 養成校（保育士・看護師・栄養士）からの実習生を受け入れ、人材育成に努めた。
(3) 定期的にホームページや SNS を活用し、保育所（園）やこどもの様子を発信した。
(4) 福島市幼・保・小・中連接推進事業の一環で幼稚園・小学校の見学及び交流を図り、小１プロブレムに対応できるよう連携をとった。
(5) 地域における公益的な取り組みとして、ホームページを活用し子育て情報「みんなで子育て」の発信を継続的に行い、地域の子育て支援の充実を図った。

2. 保育状況
(1) 保育理念のもと、全体的な計画に基づき、こどもの発達段階に応じた保育に努めた。
(2) 適切な環境を整え、一人ひとりのこどもを受容して情緒の安定を図り、養護と教育の一体的な提供に努めた。
(3) 保護者との共通理解のもと、家庭保育と集団保育との相互関係を大切にしながら保育を進めた。
(4) 食育活動として、季節の食材に触れる体験やクッキング活動等を行い、望ましい食生活について周知するとともに、健全な心と体の育成に努めた。
(5) こどもの心身の発達を阻害する事象を見逃さないよう、関係機関との連携に努めた。

3. 食育状況

(1) 食育年間計画および食育目標・食育方針を作成し、季節や年齢、発達段階に応じた食事の提供を行った。

(2) 食の嗜好を常に把握しながら食事を提供し、保護者との連携を密に乳幼児の食生活の指導を行った。また、食材についても、地産地消を中心に新鮮かつ旬の食材を提供した。

(3) 食育の促進について、保育士と栄養士との話し合いを深め、全職員で取り組んだ。

(4) 医師の診断に基づき、アレルギー除去食を実施した。

(5) 食中毒の防止に常に留意するとともに、保護者への周知に努めた。

(6) 食べ物による窒息事故を防ぐため、マニュアルに基づき調理方法を工夫し、安全に提供した。

4. 健康管理

(1) 嘱託医による乳児健診、内科健診（年 2 回）、歯科検診（年 1 回）を実施するとともに、専門機関による 3 歳以上児の尿検査を実施した（年 1 回）。

(2) 身体測定を毎月実施し、こどもの成長・発達状況の把握に努めた。

(3) 虫歯予防のため、嘱託医の指導のもと、4・5 歳児以上のフッ化物洗口を実施した。

(4) 基本的な感染症対策を行い、感染症のまん延防止に努めた。

5. 安全管理

(1) 危機管理マニュアルに基づき、建物・器具・遊具等の点検を行い、安全管理に努めた。また、給食管理マニュアルに基づき、異物混入に十分注意し給食提供を行った。

(2) 避難訓練および消火訓練は毎月実施し、総合訓練については消防署に依頼して実施することができた。

(3) 児童に分かりやすい防災および防犯の指導に努めた。

(4) 交通安全指導において、絵本や紙芝居を用いた実地指導を行った。

(5) 保育所における個人情報の取扱いについては、関係者の同意を得たうえで慎重に行った。

(6) 乳幼児の睡眠の安全管理のため、0 歳児にはマット型センサーまたはボタン型センサーを使用して確認を行い、全ての年齢で目視による確認を行った。

(7) 保護者との連絡をアプリで行い、災害時にも活用できるようにした。

6. 保育の質の向上

(1) 施設外研修に参加した。

①各部会・研究会（施設長、主任保育士、保育士、給食担当者）への参加

②オンライン研修への参加（福島県社会福祉協議会、福島市、指定キャリアアップ等）

(2) 法人内研修を実施した。

年間テーマに基づいた年齢別研修・報告は紙面で行った。

(3) 施設内研修を実施した。

①全体的な計画に基づき保育計画・行事等の検討及び反省

②園外研修参加者による報告
③施設ごとにテーマを設定した自主研修
④「人権擁護のためのセルフチェックリスト」による自己点検

7. 利用状況

保育所名	定員/年間	年間延べ利用者数											
		0歳			1歳			2歳			3歳		
		R7	R6	前年比	R7	R6	前年比	R7	R6	前年比	R7	R6	前年比
福島隣保館保育所	120人 / 1,440人	106人	114人	△ 8人	230人	216人	14人	282人	216人	66人	287人	276人	11人
福島保育所	120人 / 1,440人	99人	114人	△ 15人	216人	216人	0人	216人	216人	0人	300人	300人	0人
瀬上保育所	80人 / 960人	86人	62人	24人	132人	159人	△ 27人	188人	160人	28人	192人	192人	0人
福島わかば保育園	60人 / 720人	119人	110人	9人	144人	150人	△ 6人	144人	128人	16人	132人	124人	8人
福島ふたば保育園	90人 / 1,080人	87人	89人	△ 2人	168人	192人	△ 24人	215人	195人	20人	210人	204人	6人
飯坂保育所	90人 / 1,080人	106人	80人	26人	147人	180人	△ 33人	180人	178人	2人	204人	204人	0人
合計	560人 / 6,720人	603人	569人	34人	1,037人	1,113人	△ 76人	1,225人	1,093人	132人	1,325人	1,300人	25人

保育所名	年間延べ利用者数											
	4歳			5歳			合計			充足率		
	R7	R6	前年比	R7	R6	前年比	R7	R6	前年比	R7	R6	前年比
福島隣保館保育所	288人	276人	12人	276人	276人	0人	1,469人	1,374人	95人	102.1%	95.5%	6.6%
福島保育所	300人	324人	△ 24人	324人	288人	36人	1,455人	1,458人	△ 3人	101.1%	101.3%	△ 0.2%
瀬上保育所	197人	184人	13人	168人	192人	△ 24人	963人	949人	14人	100.4%	98.9%	1.5%
福島わかば保育園	120人	122人	△ 2人	120人	96人	24人	779人	730人	49人	108.2%	101.4%	6.8%
福島ふたば保育園	204人	216人	△ 12人	215人	228人	△ 13人	1,099人	1,124人	△ 25人	101.8%	104.1%	△ 2.3%
飯坂保育所	204人	198人	6人	204人	228人	△ 24人	1,045人	1,068人	△ 23人	96.8%	98.9%	△ 2.1%
合計	1,313人	1,320人	△ 7人	1,307人	1,308人	△ 1人	6,810人	6,703人	107人	101.4%	99.8%	1.6%

地域子育て支援拠点事業（福島市委託事業）
わかば子育てセンター・せのうえ子育て支援センター・
いいざか子育て支援センター（5日型）

1. 運営管理

核家族化、少子化とともに、父親の育児休暇取得など家庭機能の変化、地域社会とのつながりの希薄化が一層進む中で、子育て中の保護者やこれからこどもを産もうとしている人たちの子育ての不安や悩み、孤独感を緩和し、寄り添う支援を意識して事業を行った。

また、子育て支援センターが地域における子育て支援の拠点となるよう、各種事業を推進するとともに、関係機関や地域子育てサークル・施設との連携を図った。

2. 事業内容

（1）子育て親子の交流の場の提供および交流の促進

①利用者に応じた環境設定を充実させるために、電話予約申し込みを実施した。

②利用者の低年齢化が進み、0 歳児が利用登録総数の半分を超すほどになっている。その多くが育児休業で満 1 歳の頃に職場復帰を予定しており、保育所への途中入所が可能かどうか不安に感じる声が多く聞かれた。

③日によって利用人数はまばらだが、少人数であることから、利用者同士や職員との交流が深まり、こどもの成長や家庭の悩み、こどもを遊ばせる場や施設の情報などを共有し合う場となった。
④せのうえ子育て支援センター事業は、実地調査において指導されている専有スペースの確保が難しく、継続課題となった。

(2) 子育てに関する相談、援助の実施（子育て等に関する件数　資料②）
①ひろば利用時に相談が多く寄せられ、幼稚園や保育園の入園について、食事、イヤイヤ期、こどもの成長発達、子育てに関する情報など、利用者同士で話し合い、つながりを持てる場となるよう配慮した。
②利用者が幼稚園や保育園に入園した後も、園の休みや長期休みにセンターを利用する親子もおり、子育ての場・相談の場として今後も長く利用が期待されると考えられる。

(3) 地域の子育て関連情報の提供
①毎月のセンターだよりの発行やホームページの更新、福島市の子育てアプリ「えがお」の運用など、子育て支援に関する情報発信に努めた。
②学習センターや近隣施設などにポスターの掲示やパンフレットの設置を依頼し、センター活動に関する情報提供を行うとともに、各種子育てに関するチラシの配布を実施した。

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
①親子教室では、開催時期や会場を調整しながら、継続的に参加の機会を提供してきた。離乳食講習は情報提供の場であると同時に、実際にどのように進めたらよいのか悩む保護者にとって、安心して学び、試すことができる大切な体験の場となっている。また、親子リトミックなど、親子で体を動かして楽しめる企画の開催も期待されていた。
②３センター合同で行った講演会では、市民センター大ホールでピアノの音に触れながら、親子でリズムに合わせて体を動かして楽しんだり、季節を感じられるゲームのような遊びを体験したりすることができた。

(5) 関係機関との連携・事業協力
①３センター各々に学習センターの家庭教育学級、子育てサロンなどの支援を行いながら、地区担当保健師や民生児童委員との交流をもち、地域の子育ての状況の把握に努めた。
②子育て支援センター連絡会やサークル連絡会は定期的に開催され、各支援センターと情報交換をしたり、講師を迎えての講習会を行ったりした。サークル連絡会の開催では、参加状況を見ながらセンター職員の参加見直しなども行った。
③乳児家庭全戸訪問を行う「こんにちは赤ちゃん訪問」事業において、「こんにちは赤ちゃん応援隊」の保健師がセンターの情報を伝えたことで、センターへの問い合わせや利用につながった。

資料①　年間利用者状況

		開催数	利用人数		
			大人	こども	計
わかば	「こっこひろば」	164回	613人	696人	1,309人
	わかばひろば（講演会含）	27回	240人	250人	490人
	赤ちゃん広場 「ピヨピヨひろば」	41回	174人	172人	346人
	わかば「ドレミひろば」	12回	103人	116人	219人
	センター開放	242回	0人	0人	0人
	計	486回	1,130人	1,234人	2,364人
せのうえ	子育て広場 「いちょうひろば」	141回	546人	623人	1,169人
	親子教室 「のびのびくらぶ」	35回	235人	254人	489人
	赤ちゃんこんにちは	43回	205人	204人	409人
	ほっこりひろば（全年齢）	49回	164人	186人	350人
	センター開放	229回	14人	14人	28人
	計	497回	1,164人	1,281人	2,445人
いいざか	「ぽっぽひろば」	177回	453人	488人	941人
	親子教室	23回	133人	133人	266人
	「ベビーぽっぽ」	54回	125人	125人	250人
	センター開放	243回	13人	14人	27人
	計	497回	724人	760人	1,484人

資料②　子育て等に関する相談件数

		わかば	せのうえ	いいざか
相談方法内訳	電話	14	1	2
	来所	42	71	53
	訪問	0	0	0
計		56	72	55

児童厚生施設

設置運営施設

福島市東浜児童センター　福島市野田児童センター

福島市指定管理施設

福島市蓬莱児童センター　福島市清水児童センター

福島市渡利児童センター

1.　運営管理

児童が心身ともに健やかに育成されるよう、地域のこどもたちにのびのびとした遊びの場を提供するため、施設を管理運営した。

遊びや行事、運動を通して、情操を豊かにするとともに、体力の増進を図った。また、危機管理を徹底し管理運営を行った。

2.　活動状況

（1）こどもが遊びによって心身の健康を増進し、知的・社会的能力を高め、情緒を豊かにするよう援助した。

（2）こどもの自主性を尊重し、同年齢や異年齢の集団を形成して、さまざまな活動に取り組めるよう援助した。

(3) こどもの自己効力感や自己肯定感が育まれる環境づくりに努め、こどもが安全で安心して過ごせる居場所とした。
(4) こどもの意見を尊重し、自発的に活動できるよう努めた。
(5) 配慮を必要とするこどもの早期発見に努め、法人内公益的取組である「包括的相談事業」の活用や、関係機関等との密接な連携により対応した。
(6) 幼児クラブなど、こどもと保護者が自由に交流できる場を提供するなど、子育て支援の一翼を担うように努めた。
(7) 活動内容等を広報するとともに、地域のさまざまな育成活動に協力しながら、地域全体で健全育成を進める環境づくりに努めた。
(8) 学生ボランティアを積極的に受け入れるとともに、地域住民がボランティア等として活動に参加できる機会を提供した。
(9) 児童センターの持つ拠点性・多機能性・地域性を生かし、放課後児童クラブを実施するとともに、一般来館児童と登録児童が交流できるよう遊びや活動に配慮した。
(10) 個人情報の取扱等に配慮し、こどもの安全・衛生管理や防災・防犯対策に努めた。
(11) 職員の資質向上を図るため、継続的して研修を実施した。
(12) 地域による見守りと安全安心な環境のもとで児童が自ら成長できるよう、地域との結びつきや連携を深める活動や事業を推進した。
(13) 施設の改修工事及び整備については、中長期計画を基本として計画的に進めた。
(14) 活動の充実を図るため、広く意見を聴収した。

3．利用状況

年間利用者数内訳

区　分		東浜	野田	蓬莱	清水	渡利	合計
利用者数	幼児	2,077人	507人	498人	403人	1,369人	4,854人
	1～3年	4,799人	11,296人	4,585人	10,245人	14,235人	45,160人
	4～6年	2,291人	1,805人	1,673人	1,723人	2,196人	9,688人
	中高生	331人	594人	645人	911人	912人	3,393人
	大人	2,215人	1,146人	850人	737人	2,650人	7,598人
	計	11,713人	15,348人	8,251人	14,019人	21,362人	70,693人
	上記のうち登録児童	2,861人	8,695人	3,624人	7,309人	10,569人	33,058人
	1日平均利用者	39.7人	51.9人	28.0人	47.5人	72.4人	48.0人
開館日数		295日	296日	295日	295日	295日	

年間総利用者数

施設名	令和7年度	令和6年度	前年比
東浜児童センター	11,713人	10,685人	1,028人
野田児童センター	15,348人	14,288人	1,060人
蓬莱児童センター	8,251人	8,906人	△655人
清水児童センター	14,019人	14,431人	△412人
渡利児童センター	21,362人	16,692人	4,670人
計	70,693人	65,002人	5,691人